

地域別の将来像と政策の方向性（たたき台）

尾張地域

将来像

多種多様な人材・産業・主体が、垣根を越えて連携・共生・活躍し、活発なイノベーションを創出する地域

（背景・課題）

- 大規模ニュータウン等の人口減少・高齢化が進行する地域と、都心部など若い人口構造を維持する地域が混在する。人口減少・高齢化地域では地域の担い手が不足していく。一方、都心部では、合計特殊出生率は低く、自然減が課題となっていく。また、外国人材や留学生を始め、多様な人々が暮らしている。
- 大学、各種専門機関、NPO団体が多く立地している。また、農業、製造業（陶磁器・工作機械・航空宇宙など）、情報通信業など、多様な産業も存在している。
- 国際空港とリニア駅が存在する立地条件から、国内外との交流が活発な地域となっている。

将来像の実現に向けた政策の方向性

◆ 多様性が尊重される全員活躍社会の実現に向けて

年齢・国籍・職業など幅広い住民や、大学・NPOなどの様々な主体が、市町村域を超えて共に支え合いながら、協働して活躍している地域をつくっていく

（重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ）

多様性を尊重する社会づくり

→障害のある人や外国人、LGBTなど、様々な立場の当事者と直接触れ合い、お互いを知ることで、多様性を認め合うきっかけとなる機会を創出していく。

支え合いの社会づくり

→出産・子育て支援に取り組む市町村が、NPOなどの様々な主体と協働で、地域に合った施策を考え、実施していけるよう支援を行っていく。

→地域活動やボランティア活動に参加したい人が、活動情報にアクセスして、地域活動等に参加しやすくなるような仕組みを作っていく。

豊かな時間を生み出す働き方ができる社会づくり

→テレワークを推進することで、子育てや介護を行う人や障害のある人など、時間や場所の制約を受けやすい方でも働きやすい環境を整備するとともに、テレワークに適した勤怠管理や賃金、能力評価の制度を検討し、県内企業に普及させていく。

生涯にわたって活躍できる社会づくり

→多世代交流の場など、高齢者の外出や社会参加を促す仕組みを構築する。

都市機能・生活空間を保つスマートな地域づくり

→高齢化が進むニュータウン等を、人口減少に伴う課題の解決に取り組む先進地域として、交通や健康福祉などのスマート化に取り組んでいく。

◆ 多様な産業が垣根を越えてイノベーションを創出する地域の実現に向けて

域内に存在する多様な産業や大学・研究機関の人材が連携しながら、産業のイノベーションを創出する地域を作っていく

（重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ）

モノづくりの集積を生かす国際イノベーション都市づくり

→製造業とスタートアップなどとの連携を促し、イノベーションの創出に向けた、愛知ならではの強みを磨いていく。

→産官学が連携し、プログラミングやデータサイエンスに関する先進的なプログラムを構築し、県内の大学において実施することで、文系・理系を問わずデジタル人材を確保・育成する体制を構築していく。

→地域が連携して農林水産物のブランド化や6次産業化を進める体制を構築し、魅力発信や担い手の確保を推進していく。

◆ 多様な人材・産業・地域がつながり、交流する地域の実現に向けて

スーパー・メガリージョンの中核地域として、国内外との交流基盤をさらに充実させるとともに、高次都市機能を集積させ、MICEやコンテンツ観光などの地域ならではの魅力を磨き、世界中から人を呼び込む地域を作っていく

（重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ）

世界とつながるグローバルネットワークづくり

→高級ホテルの誘致や周遊ルートの拡充、コンテンツツーリズムの充実などにより、インバウンドによる観光消費額のさらなる拡大を図っていく。

→留学生や在住外国人など、多様な人々と地域住民が日常的に交流できる場を創出していく。

スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり

→中部国際空港の2本目滑走路を早期に整備して、国際線の就航の充実を図り、国際交流における拠点性を高めていく。

選ばれる魅力的な地域づくり

→自治体、大学、企業が連携して、アフターコンベンションや観光ツアーの創出、プロモーションを行い、「Aichi Sky Expo」を訪れるビジネス客を県内に誘導していく。

→ジブリパークを拠点とした観光ルート、アクセスを形成し、ジブリパークを目的に愛知県を訪れた観光客を周辺の地域に誘導していく。

◆ 災害に強く、自然と調和した地域の実現に向けて

南海トラフ地震や、激甚化する災害に備えて、地域を強靱化していくとともに、持続可能な社会を作っていく

（重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ）

安全・安心で持続可能な地域づくり

→学校教育や地域、企業活動などの多様な場面において、防災教育・啓発活動・防災訓練を充実させ、地域防災力の強化を図っていく。

→人口減少に伴って生じる空き家や空き地を有効に活用し、都市や工場により分断された自然を都市緑化などによりつなぎ合わせ、生態系ネットワークや良好な住環境を形成していく。

西三河地域

将来像

自動車産業から進化を遂げたモビリティ産業の活力を、地域経済や暮らしに波及させながら、愛知の発展をけん引する地域

(背景・課題)

- 他地域よりも若い人口構造であるが、高齢化は進展していく。また、人口規模は維持されていくが、子育て世代は転出超過となっている。
- 世界有数の自動車産業が盛んな地域で、大企業のマザー工場も複数立地するが、電動化やMaaSといった大きな変革期を迎えている。
- リニア駅となる名古屋駅や、中部国際空港へのアクセスに長時間(40分以上)を要する市町がある。

将来像の実現に向けた政策の方向性

◆ 子どもから高齢者まで全員参加型の活力があふれる住みやすい地域の実現に向けて

子育て世帯も高齢者世帯も外国人も、安心して暮らしていけるような環境づくりを行っていくことで、全員がチャレンジできるような活力ある地域を作っていく

(重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ)

支え合いの社会づくり

- 結婚と出産・育児を希望する人が、結婚前から出産・育児へのイメージを持ちながら、安心してライフステージを重ねることができるよう、ワンストップで支援する仕組みを作っていく。
- 多様な子育て支援を充実させつつ、個々の状況やニーズに応じて、適切な支援メニューを選択して利用できる環境を作っていく。
- 地域活動やボランティア活動に参加したい人が、活動情報にアクセスして、地域活動等に参加しやすくなるような仕組みを作っていく。

豊かな時間を生み出す働き方ができる社会づくり

- AI、ロボットなど、生産性向上のための第4次産業革命の新技术の導入を支援し、さらなるワーク・ライフ・バランスを推進していく。

世界とつながるグローバルネットワークづくり

- 愛知県内での就職を希望する全ての留学生が、県内企業に就職できるよう支援していくとともに、県内企業に定着し、活躍することができる環境を整備していく。

◆ 新しいモビリティ産業で世界をリードする地域の実現に向けて

自動車産業の変革に対応した研究開発を支援していくことで、引き続き世界のモビリティ産業を牽引する地域を作っていく

(重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ)

モノづくりの集積を生かす国際イノベーション都市づくり

- 第4次産業革命の新技术の利活用に向けた実証実験に対する支援や、企業等の新技术の導入を支援していく。

→製造業とスタートアップなどとの連携を促し、イノベーションの創出に向けた、愛知ならではの強みを磨いていく。

→自動運転や空飛ぶクルマなど、新たな移動手段の社会実装に向けた取組を進めていく。

→中小企業の強みを生かした新たな事業分野への進出や、第4次産業革命の新技术の実装を支援するとともに、中小企業の魅力発信や人材確保のための支援を実施していく。

◆ 住民と産業の活力が内外に波及している地域の実現に向けて

地域外との交流・物流基盤を整備していくとともに、交通不便地域にはMaaSやCASEといった新しい移動手段を活用しながら、地域に合ったまちづくりを進めていく

(重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ)

豊かな時間を生み出す働き方ができる社会づくり

→MaaSの推進により移動の効率性を高めていくとともに、自動運転をいち早く実装し、移動時間を多目的に利用できるようにしていく。

スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり

→中部国際空港から、モノづくりの中心地である三河地域など県内外の主要拠点へのアクセス強化に取り組んでいく。

→リニア中央新幹線(東京-名古屋間)開業後の東海道新幹線を有効活用していく。

→既存の交通基盤を最大限に有効活用し、県内主要拠点間の移動時間の短縮を図っていく。

選ばれる魅力的な地域づくり

→観光地間の移動を容易にし、新たな観光ルートの創出にもつなげる観光MaaSの導入を推進していく。

◆ 災害に強く、自然と調和した地域の実現に向けて

南海トラフ地震や、激甚化する災害に備えて、地域を強靱化し日本の成長エンジンを守るとともに、持続可能な社会を作っていく

(重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ)

安全・安心で持続可能な地域づくり

→行政、大学、産業界が連携し、実効性のある事業継続計画(BCP)の策定を促進し、大規模災害時における経済活動の迅速な復旧・復興に備えていく。

→気候変動へ適応する技術開発を推進・支援していく。

東三河地域

将来像

暮らし・自然・文化の豊かさと、地域内外の活発な交流で、
地域からも世界からも愛着を持たれる地域

(背景・課題)

- 他地域よりも早いスピードで、高齢化や人口減少が進んでいく。特に北部山間地域や半島地域では人口減少や高齢化がより一層進行していく。
- 県内随一の農業地域であり、林業・水産業も盛んであるが、就業者の減少や高齢化が更に進んでいく。
- 名古屋への一極集中により、都市機能が低下し、多核連携構造の維持が困難になっていく。
- リニア開通後、リニア中間駅に近い北部山間地域では、首都圏や名古屋へのアクセスが向上する。また、東海道新幹線が「ひかり・こだま」中心ダイヤになることで、豊橋駅の利便性も向上していく。

将来像の実現に向けた政策の方向性

◆ 地域内外の人の交流で地域に活力があり、愛着を持たれる地域の実現に向けて

地域内の人口減少や高齢化が大きく進む中において、地域の活力を維持していくために、地域内人材の全員活躍とともに、地域外からも東三河に愛着を持ち、地域の課題に取り組んでもらえるような人を増やしていく

(重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ)

支え合いの社会づくり

- 住み慣れた地域において、安心して買い物や医療などの生活関連サービスを利用できるような取組を支援していく。
- 地域活性化に向けて課題を抱える地域が、地域外の人による「よそ者」目線でのアイデアをもらうことで、地域内外の人を巻き込んで新しい施策に取り組めるような関係づくりを行っていく。

選ばれる魅力的な地域づくり

- 県内で活躍する外国人を起用し、SNS等を通じて、外国人自身の観点から見た愛知の魅力について情報発信していく。
- 地域に根ざした企業や大学と連携して、シビックプライドの醸成・浸透を図っていく。

◆ 新しい技術を生み出し、暮らしや産業に活用していく地域の実現に向けて

AI、ICTなどによる先進技術を実験段階から次々と地域に取り入れ、発展させながら、暮らしの快適さや製造業・農林水産業などの産業の活力を維持向上させていく

(重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ)

モノづくりの集積を生かす国際イノベーション都市づくり

- 無人店舗の展開など、サービス産業における第4次産業革命の新技术の実装を促

進んでいく。

- 農林水産業における第4次産業革命の新技术の実装を支援し、生産性の向上や流通体制の効率化を図るとともに、熟練農家の技術・技能の伝承を支援していく。

スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり

- 地域の特性を生かしたバランスある産業振興に取り組んでいく。

ゆとりある生活空間を保つスマートな地域づくり

- 自動運転やオンデマンド型など低コストで新しいモビリティや、移動する商店街など、低密度化する地域における都市機能・生活機能の維持に必要な技術・サービスの導入に向けて取り組んでいく。

◆ 地域内外のネットワークがさらに強化・充実した個性あふれる地域の実現に向けて

地域外との交流・物流基盤を整備していくとともに、情報通信基盤の整備も進め、地域内外から訪れやすく、つながりやすい魅力的な地域を作っていく

(重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ)

スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり

- リニア中央新幹線(東京-名古屋間)開業後の東海道新幹線を有効活用していく。

都市機能・生活空間を保つスマートな地域づくり

- 空き地や空き家の増加により低密度化する地域を活用して、ゆとりある良好な居住環境の創出に取り組んでいく。
- IoT、AI等の普及を見据え、ビッグデータを活用した効率的な社会インフラの維持管理に取り組んでいく。
- 低密度化する地域において、分散型のインフラへの転換等により、持続可能な自立した地域づくりに取り組んでいく。

選ばれる魅力的な地域づくり

- リニア中間駅(岐阜・長野)の開業によりアクセス利便性が大きく向上する三遠南信地域における観光促進に取り組んでいく。

◆ 災害に強く、自然と調和した地域の実現に向けて

南海トラフ地震や、激甚化する災害に備えて、地域を強靱化していくとともに、持続可能な社会を作っていく

(重点的に取り組むべき政策の方向性イメージ)

安全・安心で持続可能な地域づくり

- 学校教育や地域、企業活動などの多様な場面において、防災教育・啓発活動・防災訓練を充実させ、地域防災力の強化を図っていく。
- 地域資源を用いた再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、省エネに向けた技術開発を支援していく。
- 分散型のコジェネレーションシステムなどにより効率的にエネルギーを利用しつつ、災害時にも対応できるレジリエント(しなやかで強靱)な地域づくりに取り組んでいく。